

キクの病害虫の発生状況（5月中下旬）

1 白さび病

発生ほ場割合は、平年並でした（図1）。育苗床からの持ち込みによる発生と思われます。本病は、キクの品種によって発病に差があるので、発病しやすい品種では、防除を徹底してください。また、多湿条件が続くと発病しやすくなるので、これからの梅雨入りに備え、予防散布を心掛けてください。

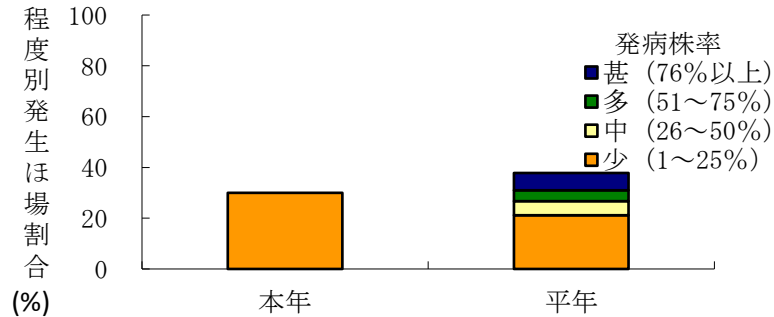


図1 白さび病の発生状況

2 アブラムシ類

発生ほ場割合は、平年よりやや低い状況でした（図2）。天候が高温乾燥気味に経過しているので、今後、有翅虫の飛来が多くなることが予想されます。気温の上昇に伴って急激に増殖することがあるので、ほ場をよく観察し、発生が見られる場合は防除を実施してください。

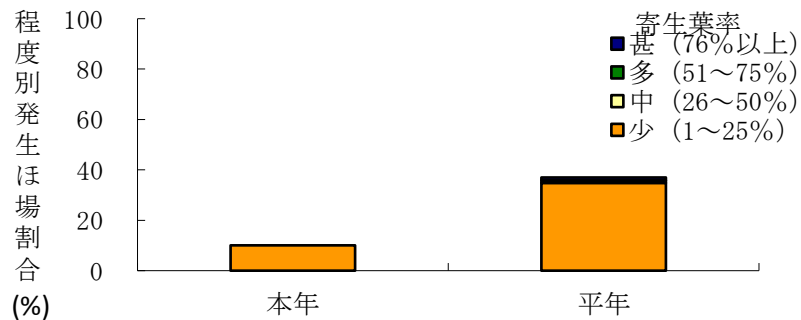


図2 アブラムシ類の発生状況

3 ハモグリバエ類

発生ほ場割合は、平年より低い状況でした（図3）。寄生種は、ナモグリバエが主体で、夏季には発生が少なくなりますが、上位葉にも発生が見られる場合は、防除を実施してください。

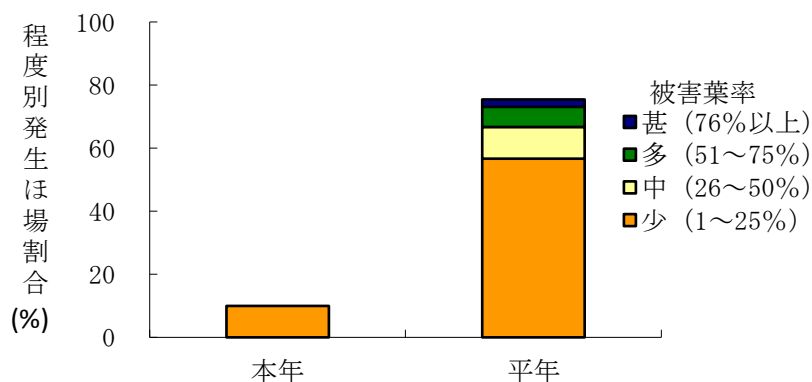


図3 ハモグリバエ類の発生状況

4 アザミウマ類

発生ほ場割合は、平年並でした（図4）。ほ場周囲の雑草が発生源となることが多いので、除草を徹底してください。発生種がミカンキイロアザミウマの場合は、効果の高い薬剤が少ないので、薬剤の選択に注意してください。また、本種は、TSWV等のウイルスを媒介するので注意が必要です。

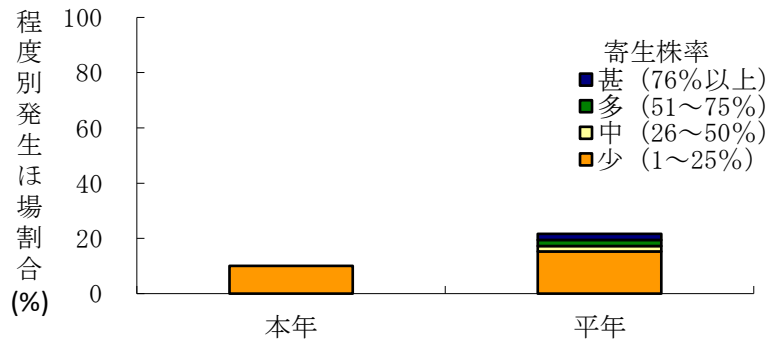


図4 アザミウマ類の発生状況

5 ハダニ類

巡回調査では、発生は確認されませんでした（図5）。多発すると防除が難しいので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。また、薬剤によっては、感受性が低下している可能性があります。薬剤防除を行った場合には、防除の2～3日後に葉裏を観察し、効果が十分でない場合には、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

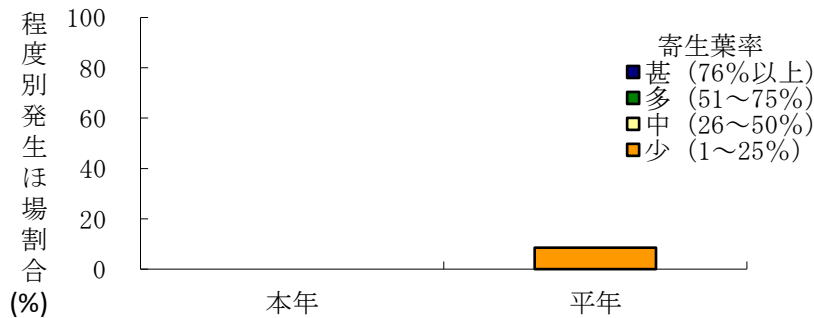


図5 ハダニ類の発生状況

6 オオタバコガ

巡回調査では、寄生は確認されませんでした。フェロモントラップ調査では、新地町での誘殺時期がやや早く（図6）、誘殺数は平年並ですが、成虫の飛来が6地点中2地点（新地、伊達）で確認されています。ほ場をよく観察し、発生が見られた場合には防除を実施してください。

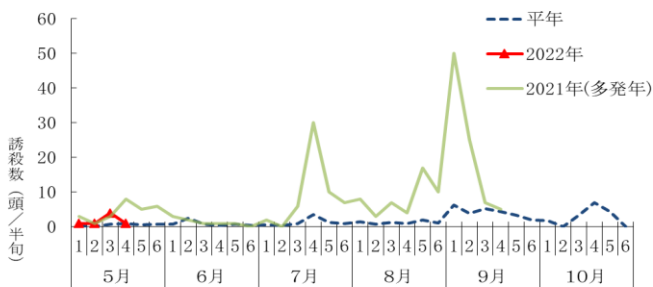


図6 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺状況
(新地町:キク)



写真1 キクに寄生するオオタバコガ

注意が必要な病害虫

■キクベと病

昨年、育苗床～本ぽ定植株で発病が確認されています。下位葉からの発病が多く葉裏に白色～淡黄褐色のカビを生じます。やがて発病部位は枯死し、上位葉に拡がると株が枯死する場合があります。

湿度が高い条件で発病しやすくなるのでは場の排水をよくするとともに、発病葉を認めた場合には直ちに除去し、ほ場外に持ち出して土中に埋没するなど適切に処分してください。



写真2 ベと病による葉裏の菌そう



写真3 親株での発生

- 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727 e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp